

朝夕はいよいよ冷え込み、冬の足音を感じる時期になりました。みなみの利用者にとっては、ここで2度目の冬が近づいています。去年は、病院で冬を迎えてからみなみに引っ越してきたので、みなみで冬を迎えるのは初めてになります。

冬の迎え方も色々です。廊下に出るにもジャンパーを着込み、「暑いんじゃないだろうか？」と心配になるような人もいれば、寒さにこらえきれずに他の部屋で暖を取っているのに「暖房はいらない」と言う人もいます。さすがに冬本番もそういうわけにはいきませんので、今度、連れだって暖房を買いに出掛ける予定です。

気がつけば、みなみは春夏秋冬を経験しました。冬に始まって、春、夏が過ぎ去り、今は秋が過ぎようとしています。まだ1年も経っていませんが、ずいぶんと時が経ったように思います。これからも、みなみでは、みなみのペースで時間が流れていくのでしょうか。(高橋)

在介出かい話 ③

「いつでもまだ寄ってや！お茶っこでも飲むべし」実態把握をされていてそう声をかけられたことがある。普段良く聞き慣れている、この辺りの言葉である。

帰り際、私のことを笑顔で見送ってくれるおばあさん。旦那さんを先に亡くし、子供達はいるようだが、遠くへ行っているようでなかなか会うこともなく、一人で暮らしているという。

そんなおばあさんと玄関先で外を眺めながら、しばし他愛もない話で盛り上がる。私はその時そのおばあさんにとって、どんな人間として映っているのだろうか。そんなことをふと考えた。

出会いとは不思議で、たとえその時初めて会ったとしても、つながれる。年齢は違えど、そこでの時間は共有している。そこに私の雰囲気があるのなら大切にしたいと思った。(清水)



里のひとこま

編集後記

事務所では通信の編集をしながら、外を眺め、季節を感じる瞬間があります。目に入る木々の葉もすっかり赤や黄色に色づき、中には葉を落とし、少し寒そうな木もあります。徐々に銀河の里も冬に向けての準備に入ります。季節を肌で感じながら、その中で生きる自分を考えてみたいと思います。(清水)

編集 銀河の里広報委員会
 代表 清水康宏
 発行 銀河の里
 〒025-0013
 岩手県花巻市幸田4-116-1
 TEL (0198)32-1788
 FAX (0198)32-1757
 E-mail:yuyu@mx51.et.tki.ne.jp

寿命と尊厳と「生き方」

宮澤 健

これまでの里の建物をすべて担当してもらった、建築設計者のKさんが亡くなった。56歳だった。里の計画段階からの付き合いであったから6年お世話になってきたことになる。資金の乏しいなか、暮らしの場所として、良い建物で雰囲気のある空間を実現したいという思いから、仕事上あれこれ無理難題を押しつけてきた。また、国や県の補助金を利用しなければならない立場から、談合の問題があり、それをはねのける戦いも苦戦しながらやってきて、戦友のようなところもあった。飄々として鷹揚な人柄だった。お世話になったままでお別れとなったのは残念である。

最初の里の建物が完成するまで生きていられるだろうかと案じていた、我が家のミツ婆さんは今もって元気である。里の建物ができあがり入居してきたAさんは、最初の夏を乗り切れるかと家族も我々も心配していたが、5回目の夏も乗り越え元気である。

寿命は、順番通りにはなるものではなく、人智の及ぶ所ではないものようだ。有能で社会にも期待される働き盛りの一家の大黒柱が逝き、高齢者が生き残るのは、誰かが意図してやっているとしたら理不尽であるかもしれない。しかし人の意図を遙かに超えているからこそ、生命は尊いのだろう。確かに統計的にいえば、順番も、平均寿命もあるのだろうが、個人の人生や寿命は、そんな数字とは全く関係なく、抽象的でなく、具体的世界として存在していることを思い知らされる。

私個人の周りでも、この一年間に亡くなった身近な人は、高齢者より同年代の人が多く。病に伏せていたわけでもなく、お互い忙しい年代を、ばたばたしているうちにいつの間にか向こうに行ってしまったような感じで驚く。

知り合いではないが、高田渡が今年4月に56歳で亡くなった。以前からすっかり爺さんで、異様なくらい年寄り臭く、仙人タイプの人だった。北海道のライブ後に倒れそのまま亡くなった。まさに旅の途中という感じで、逝き方としては前向きで見事と思わされた。

リアルタイムにはフォークに関心を持たなかった私は最近になってこの人のことを知った。CDを聴くと、30年前と歌っている歌は同じなのだが、まるで違う人が歌っているような味を醸し出している。若い人にも根強い人気が出てきたところで、去年は映画「タカダワタルテキ」も完成した。メディアが巨大化し流行歌が音やリズムに流れていくなかで、あくまで詩を言葉として大事にした人だったと感じる。時流に乗らず、貧困の生活に甘んじ酒で体を壊して、活動を停止していたこともある。最近の人気の秘密は歌い続けた歌詞と同じような生活にあったように思う。貧困を生きながら貧困を歌い、苦しさや哀しさを生きながらそれを歌にする。生き方と仕事が一本、繋がっている。そこが若い人にも深い共感を持って伝わるようなところがあったと思う。

我々が現場で認知症の高齢者から受ける衝撃も「生き方」が伝わってくることの衝撃がある。本来、子どもが育つ為には、大人の「生き方」が伝えられる必要がある。ままならないこと、分からないことを抱えながらもかく進んで行かなければならない人生において、決まりごとを覚えていても何の役も立たないことがほとんどだ。そこで若者を支えるのは大人の見える「生き方」しかないのではないかと。その大人になかなか出会えないのが、現代の子どもや若者の不幸でもあるように思う。

収穫祭各部門担当者生の声&ひとこま

当日、開店前にはすでにお客さんの列ができ、開店とともにデイホールはまるでタイムバーゲンのような賑わいでした。

グループホームやワークステージの方々、「これはどう?」「病院さ行くとき着たらいいな!」等のやりとりをしながら、お客さんに喜んで貰うだけでなく、私達スタッフも存分に楽しめるバザーとなりました。

今年も皆さんのご協力のおかげで大盛況を終えることが出来ました。なかには、収穫祭のために手作りの作品をお持ち下さった方もいて、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。(牛坂)

ワークステージでは屋台、ジャズレストランを開きました。売上は全てワーカーさんに還元されるということで、意気込んで迎えた収穫祭でしたが、屋台では即売売ってしまう商品があったほど!予想を上回る大盛況でした!

餃子レンジャーが作った餃子は特に大人気!ハプニングはいろいろありましたが、その課題は来年に繋げると考え、自分たちの作ったものを多くの方々に食べてもらえたという達成感で、みんなホクホクの笑顔で収穫祭を終えました。(米澤)

当日は、天気にも恵まれ、沢山の方々におこいいただきました。自分たちの手で収穫し、調理したもののや、手作りの作品を並べられたのはとても嬉しいものでした。

また、銀河の里ができて5年目ということもあり、5年という時の間に収穫できた出会いや、関係性がつまった展示コーナーを創りました。その想いを感じて下さったかのように、多くの方が足を止め、見て下さったことを嬉しく思いました。

収穫の時期を迎え、1年間の振り返りと様々なドラマがあったことが思い出されます。そしてお祭りをきっかけに、いろんな表情を見られたり、新たな出会いに喜びを感じたり、それぞれが目には見えない何かを心に収穫できたように思います。自然の恵み、沢山の方々の想いや力、そして、支えて頂いたことに感謝でいっぱいです。ありがとうございました。(渡邊)



バザー

これ、いかがですか?

プロの販売員!?



里や

大繁盛!

いらっしやいませ!

屋台・ジャズレストラン



開店!



大忙しの屋台

平成17年度銀河の里 収穫祭

今年も大盛況のうちに終わることができました。
皆様本当にありがとうございました。
また来年をお楽しみに!

銀河の里「収穫祭」実行委員会および
スタッフ・ワーカー一同

野菜がたくさん!

産直

手作り石けん初登場!

子供コーナー



親子でクリスマスリース作り



太鼓あり、踊りあり!

イベント



大迫力!「よぐまんづ」

よいしょ〜!!



もちつき

これぞ餅つき

東和町から『よぐまんづ』さんをお招きして、踊りや、歌、太鼓、劇等を披露していただきました。

笑いあり、心に響くものありと大変楽しませていただきました。お陰様で、見事な舞台でお祭りを締めくくれました。『よぐまんづ』のみなさん、ありがとうございました。(渡邊)

初めての収穫祭、初めての餅つき。当日は緊張で、それを抑えるためにバタバタと動いていたように思います。餅つきが始まり、餅つきを実際に体験していく方と、餅を買いに来た方とで行列ができ、どちらも大好評でした。

今年は一回餅をついて、65パック販売できるよう作りましたが、あっという間になくなり、お客さんから様々な要望が飛び交いました。

来年はさらに工夫して、もっとたくさんの方に里産の餅を味わって頂きたいと思います。(熊谷)

今年の収穫祭では「里コーナー」と「あかねや」が一つになり、『里や』として開店しました。和菓子から洋菓子まで、今年は種類多く商品を出すことが出来ました。大福、きりせんしょは人気があり、開店2時間で完売してしまいました。

また、今年はメロンパンも売りました。今まで当日商品を作るということではなく、初の試みでした。メロンパンは焼きたてが一番!との思いで、朝から生地作りをし、限定40個で売りました。売れる時間になると、『里や』にお客さんの列が出来ました。5年間里コーナーをやってきて初めての光景で、驚きと嬉しい気持ちになりました。値下げすることなく、お菓子は完売することが出来ました。

里コーナーの定番商品となったかりんとうは、以前グループホームに入居していたMさんの好物だったので、おやつで作るようになり、そのMさんが「買ったのよりおいしかべ。売れるんだな」との一言で売るようになりました。収穫祭当日、グループホーム入居者の家族さんから「今日はMさん来ないの?かりんとうはMさんとだったもんね。おいしいっけもんね」との声を頂きました。それを聞き、Mさんとの関わりが里スタッフだけでなく、こういう形で残っていることが嬉しくなり、Mさんとの思い出の味を残していきたいと思いました。(戸来)

平成17年度「収穫祭」	
品名	数量
大福	100個
きりせんしょ	100個
メロンパン	40個
かりんとう	65パック
手作り石けん	10個
クリスマスリース	10個
よぐまんづ	100個
もち	100個
太鼓	10個
踊り	10個
イベント	10個
子供コーナー	10個
産直	10個
バザー	10個
里や	10個
屋台・ジャズレストラン	10個
開店!	10個
大忙しの屋台	10個
大迫力!「よぐまんづ」	10個
よいしょ〜!!	10個
もちつき	10個
親子でクリスマスリース作り	10個
手作り石けん初登場!	10個
野菜がたくさん!	10個
大繁盛!	10個
いらっしやいませ!	10個
プロの販売員!?	10個
これ、いかがですか?	10個
バザー	10個